

令和3年度 学校評価総括表

奈良県立山辺高等学校学校山添分校

教育目標	農業科、家政科の特性を生かし、チャレンジ精神に満ち、正々堂々と生きる人間を「ゆっくり、じっくり、たっぷり」育てる学校づくりを進める。	総合評価
運営方針	○目指す学校像：教職員の力を結集し、確かな学力、豊かな人間性、たくましい心身や社会感覚をバランス良く身に付けた、将来、社会に貢献できる「生きる力」をもった人材を育成する学校。 ○目指す教員像：教育に対する強い情熱をもち、教育の専門家としての確かな力量を備え、総合的な人間力をもつ教員。 ○目指す生徒像：自己の能力を磨き、創造性を発揮するとともに、人や自然を愛する豊かな心を持ち、努力を積み上げ、社会で生かせる実践力を備えた生徒。	
令和2年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標
ひとりひとりの生徒に細かな配慮を行い、高校生として基礎的、基本的な力を身につけさせる。また、本校の特色である実習体験を通して、社会の厳しさや収穫、製作の喜び、働くことの意味を体感させる。基礎学力の充実と基本的な生活習慣の確立を柱に、社会で生きる力を育成する。村立高等学校設立をふまえ、広報活動をより充実させ、教育活動の特色化を地域づくりの観点から進める。	発達段階に応じて分かる授業を目指し、基礎的、基本的指導及び必要な支援を行い特別支援教育の充実を図る。また、社会で自立して生きていく力を身につけられるよう、キャリア教育の充実を図る。	・中・高の関連を踏まえ、つまずきを発見し、その対策に努める。 ・わかる授業を目指して、基礎的・基本的事項に重点を置き、指導内容を精選する。 ・体験的学習を重視し、つくる喜びを味わい、正しい勤労観を培い、社会での自己実現を図る態度を育てる。
	基本的な生活習慣や人間性として身につけべき規範意識を身につけ、主体的に判断して行動できる力を育てる。	・自ら基本的な生活習慣を身に付け、集団や社会のルールをしっかり守ることができる人間を育てる。 ・教職員と生徒との人間的な触れ合いの場を広げ、ひとりひとりを深く理解する。
	部活動をはじめ、全ての生徒活動を昨年度以上に活発化し、ルール・マナーの習得、自主性の育成、リーダーシップの育成、達成感による自己実現や自尊感情の醸成を図る。健康で活気ある生活を目指し、望ましい食習慣を身につけ、自己管理能力を育てる。	・生徒ひとりひとりが、ホームルーム活動・クラブ活動・生徒会活動・学校行事等に主体的に参加できるようにする。 ・ホームルームの活動を活発にし、豊かな校風を創造する。 ・自分の健康は自分で守るという自己管理能力を育成し、家庭・地域と連携して食育の推進を図る。
	学校のビジョン・優先課題から、教育活動の優先度を定め、業務改善・働き方改革を行う。	・勤務時間の管理を徹底し、勤務改善・健康管理を意識した働き方に努める。

B

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)				
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
学習指導	教材を精選し、基礎・基本事項の徹底を図る。	生徒の進度を見極めながら、基礎的・基本的な事項が修得できるように工夫する。漢字の読み書き、計算能力の向上を図る。	学年末において、「チャレンジタイム」の取り組みにおいて、学習意欲が高まったとする生徒が60%以上となることを目指す。	B	漢字と計算それぞれ「ゆっくり、じっくり、たっぷり」の3グループに分かれ習熟度別に取り組んでいる。漢字については、漢字検定を受検させた。	B	B	漢字が苦手な生徒も多いが、前期の時点で漢字検定合格者が各々の級で3名の合格者を輩出した。計算では興味を持って取り組む生徒もあった。	漢字の練習では解答用紙を渡して自己採点させるだけでなく、通常の授業の形態を取り入れて生徒に正答を板書させるなど生徒の興味を高める工夫が必要である。	何事もじっくりと生徒自身にさせ、考えながら真面目に取り組む態度を養ってもらっているのはたいへん良い。ICT教育、特別支援教育の一層の推進を図ってほしい。
	体験学習をとおして生徒が自主的に活動できる指導の充実を図る。	農業科や家政科の授業において、実習授業の工夫を行い、創造力を高めた実習の実践を図る。	アンケートにより農業科や家庭科の実習に理解が得られたという生徒が80%以上になることを目指す。	B	実習時に指示の通りにくい生徒もいるが、真面目に取り組む態度が見られるようになってきた。	B		十分な時間を与え、集中して取り組ませることによって、積極的に実習に取り組むことができた。	単に生徒への理解を強いるだけでは、その個人がオーバーフローするので、十分な時間を与えてゆっくりにあるが真面目に取り組ませることが必要である。	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	各HRで服装・頭髪等のルールを守らせるなどの規範意識の向上における指導を徹底し、欠席や遅刻の防止に努める。	「服装や頭髪の指導を受けたことがない」とする生徒が80%以上になることを目指す。	B	制服の着こなしや頭髪に関して各クラスの担任の先生を中心に実施されている。	B	B	生徒に対して各HRや授業等で制服や作業着等の着こなしや頭髪について指導をされているおかげで規範意識をもっている生徒は増加した。指導を複数回、受ける生徒も存在するので引き続き指導をしていきたい。	社会に出て通用する状態かどうかはわかっているが、楽な方に流れてしまっているのが現状ではないだろうか。引き続き様々な場面で生徒に指導をしていかなければいけない。	学習、生活習慣等何事においても規範意識の浸透できている学校が、増加しているのはたいへん喜ばしいことであるが、全員がそうあってほしい。クリーンキャンペーン等においては、担当生徒だけではなく、多くの生徒が参加するように指導していただけたら良い。
	ボランティア精神の醸成	生徒会活動を中心に農業クラブ、家庭クラブと連携し、生徒一人一人のボランティア意識を向上させ、自主的に活動を行えるようにする。	ボランティア活動に積極的に参加したとする生徒が80%以上となることを目指す。	B	毎月のクリーンキャンペーンについて各担当生徒が積極的に活動出来ている。	A		月1回クリーン活動を実施し、生徒にも定着してきた。最近では、山添インター付近の清掃作業を時間をかけて行うことができ、生徒が主体的に行動できるようになってきた。今後は担当生徒だけでなくクラスの有志が参加して活動できるようにしていきたい。	通学路についてほとんどゴミが落ちていない状況があり、クリーン活動の成果が出ていると感じる。今後はクラスの有志が参加できるように生徒全体に呼びかけていきたい。	
進路指導	インターンシップの充実	4年生では週3日の産業現場実習を行い、仕事の厳しさや社会生活に必要な知識と規律を学び、卒業後の職場の定着を促す。	年度末の実習事業所に対するアンケートで、「必要とされる労働力が認められる」という回答が70%以上になることを目指す。	B	4月より4年生は課題研究実習が始まり、社会人として通用する人材になれるよう、それぞれが自身に課した課題に取り組み、協力先の方から様々なご指導を受けている。	A	B	課題研究は4年生全員が熱心に取り組むことができ、企業からも概して好評を得ることができた。しかし欠席連絡の遅れや自己都合による職場変更など一部企業に迷惑をかけることもあり、痛恨が残った。	社会に出た時に通用する人間になるためにはある程度我慢も必要であることをしっかりと伝えるべきである。また勤務先の企業を選択する時に、本当に自分がしたいことは何なのかという判断基準を大切にさせて、ミスマッチを防ぎたい。	インターンシップでは、全員が熱心に取り組んだ。さらに社会人として向上していただきたいです。資格取得については、全員が合格できるように頑張っていたきたいです。なお、分校で受講できれば良い。
	資格取得の促進	専門教科や学校裁量の時間を通して、漢字能力検定、フォークリフト、家庭科技術検定等の資格取得を促進する。	資格取得希望者のうち、資格を取得できた生徒が80%以上になることを目指す。	B	フォークリフトは受講者無し、家庭科技術検定筆記試験はほぼ全員合格、漢字検定は合格に向けてチャレンジタイムで集中的に取り組んでいる。	B		漢字については、国語の時間だけではなく、SHRなどの時間を使っていかに演習時間を確保できるかがポイントである。またフォークリフト資格は、向き不向きの問題もあり一概には言えないが、分校でも受講できるようになればと考える。	ホームページをもっと活用し、学校の活動についてPRする機会を増やす取組をお願いしたい。	
人権・特別支援教育	人権教育の充実	人権教育推進プランを踏まえたHRや各種学習会を実施する。	人権に関する講演会や学習会などを1年に2回以上実施する。	A	HRで拉致問題「めぐみ」を視聴。8月に全校生対象に「デートDV」について講演を聴き、自分の事として捉え、人権意識を高める機会となった。	A	A	宿題であった人権作文について、生徒個々が人権について考え、課題を見つけて作文にまとめることができた。高人数、県外教、村人教等全て一人で担当したため、会議への出席や研修に参加することができなかった。	必要な研修には参加し、十分な知識を身につけて人権担当者として業務にあたりたい。そのためには最低2人以上で人権部を担当し、有意義な取り組みが行えるようにしたい。	人権学習に参加しようとする積極的な姿勢が見られたことは、たいへん喜ばしいことである。人権教育は、多方面にわたるののでじっくりと理解させていきたい。
	特別支援教育の充実	山添村教育研究会の教育相談部において知識・理解を深め、スクールカウンセラー(SC)の協力を得て生徒理解に努める。また、研修会等に参加し特別支援教育について学ぶ。	月1回のカウンセリングと学期毎のケース会議を実施する。特別支援教育に関する研修会を年1回以上実施する。	B	SCと新入生とのカウンセリングが全て完了し、友好的な人間関係が結ばれた。リモート研修ではあったが特別支援教育に関する学習を積むことができた。	A		SCと連携を取りながら生徒のサポートをすることができた。しかし、月一回の短時間に限られているため、十分なカウンセリング時間を確保できなかった。	次年度より個別の指導計画や教育支援計画の作成が必要となる。そのため、積極的に研修等に参加し、生徒のサポートを全職員で行える体制を整えるための知識を身につけたい。	
健康・安全管理	食育の充実	食育診断調査等に基づく指導により、自己管理能力を育成し、望ましい食習慣を確立する。	年度末のアンケートで、毎日朝食を摂取する生徒が80%以上であることをめざす。	B	10月に食生活を含めた生活習慣についてのアンケートを実施、村研で報告予定である。	B	B	毎日、朝食を摂取して登校する生徒は、約70%と昨年の状況と変わらない。保健の授業や保健だよりで生徒に啓発して、毎日、朝食を摂取する生徒の割合を増やしていきたい。	家庭の状況もあり生徒全員が朝食を摂れる環境ではない事もあるが、生徒や保護者に向けて保健だよりを活用し、引き続き啓発をしていく。	健康、学習意欲向上、コロナ感染症克服のためにも、どの食事も確実に取るように啓発していただきたい。
	安全教育の充実	教科指導や全体指導など、あらゆる機会を通して、災害や危険から身を守るための危機回避能力を身につけさせる。	交通安全教室を開催するとともに、年2回の避難訓練を充実させる。	B	交通安全教育に関して、1年対象に交通安全についての授業を実施、10月22日に全校対象にJAFによる交通安全講習会を開催した。	B		新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、生徒指導部の行事が制限される中、JAFによる交通安全講習会は全校生徒対象に実施することができた。	生徒は興味や関心をもって講習を受講していた。今後は自転車に関する条例が各自自治体で施行されているため、啓発の内容を加えていきたい。	
農業科	農業クラブ活動の活性化	近畿大会をめざし、他校農業クラブとの連絡を密にし、協力を高め相互の親睦を深めるとともに、日々の研究活動を推進する。	各種大会に参加し、上位入賞を目指す。	B	学校間の活動に制限がかかり、校内での活動が主であるが、そんななかでもクラブ大会への参加や中学校の体験入学への準備など地道な活動を継続した。	A	A	今年度はコロナ禍もあり、規模は縮小されたが農業クラブ大会が開催され発表者として大会に参加した。収穫祭も中止となり、残念な声もあったが、日々の活動の一環として、校内の整備整頓をめざし、例年より大いに校内美化を推進できた。	農業クラブの一員であるという自覚を持ち、日々の学習に意欲が欲しい。各種競技会で上位入賞できるように取り組ませたい。	農業クラブが発表できたこと、校内美化が推進できたことは、たいへん喜ばしい。「花いっぱい運動」の奉仕、野菜苗の販売等は、村の広報誌では是非広報していただきたい。村民で知らない人が多い。
	地域交流活動	地域社会と連携するなかで、ボランティア・環境問題に先進で取り組み、活動に新しい魅力を創造する。	地域との交流活動を年2回以上実施する。	A	総合実習を利用した環境整備や地域への花いっぱい運動、野菜苗の販売会など交流活動を実施できた。	A		地域への花配布について予定通り行った。また配布した花苗や販売する野菜苗の品質を向上させることができた。コロナ禍により直売所の停止や村祭りが中止になったなか例年同様の生産高を確保でき、新たに企業と連携し野菜を出荷した。	引き続き「花いっぱい運動」に協力していく。また野菜苗の販売も地域の要望に応えることができるよう種類を増やす等の努力をしたい。	

家政科	家庭実習の充実	調理実習、被服製作、ホームスパン等の実習の時間を充実させ、実習体験を繰り返すことでつくる喜びを体感し、社会で自立して生きていく力を身につける。	年度末のアンケートによりつくる喜びを実感できたとする生徒が80%以上であることを目指す。	B	家庭クラブの活動が中止となる中、製菓衛生師の先生を招きケーキ講習会を行うことができた。授業だけでは補えない経験をすることができた。	B	補習時間が多く必要となったが、被服製作やホームスパン等、衣服に関する作品は予定通り仕上げることができた。しかし、調理に関しては感染予防のため、グループ調理を止め、個々の実習となり十分な実習ができなかった。	コロナ禍における食生活のスタイルが変わりつつある現在、学校での調理実習の内容について見直しが必要であると感じた。基礎・基本の知識や技術を身につけ、自己の食事を自らデザインできる能力を身につけさせた。	家庭科技術検定の全員合格を目指し、様々な形で取り組んでいることは評価できる。基礎基本の技術を身に付けると共に、各種検定合格に頑張っていた。
	職業人としての専門性を高める	授業以外にも補習や家庭学習を通して、調理や縫製に伴う基礎的・基本的な知識や技術力を身につけられるようにする。	各種検定において3級合格者100%を目指す。料理講習会等では調理技術を生かし、地域の方々との交流を図れるようにする。	B	1年生が被服製作3級、2年3年生が食物調理2級の取得を目指し、検定練習に取り組んでいる。	A	コロナ禍において蜜を回避しながらの検定練習は不十分な部分もあったが、食物調理3級は合格率100%であり、更に2級をめざし合格率80%と努力の結果が出た。被服製作3級は合格率60%であった。	被服製作においては個々の生徒の能力に差があったため、製作の理解を深め、実技練習を計画的に行うなどの取り組みを充実させる。	
学校事務	村立化へのアプローチ	村立化を見据え、山添村教育委員会とともに、学校の特色化を推進し、新たな学校づくりのための環境整備を行う。	外部の組織・人材の協力を得ながら、地域に根ざした学校づくりを進めるとともに、施設設備等の具体的事項についても検討を深める。	C	山添村、育友会、同窓会、後援会と協力しながら、地域に根ざした学校づくりを進め、施設設備等の検討を行った。	B	山添村、育友会、同窓会、後援会と協力しながら、地域に根ざした学校として山添村教育委員会とも施設設備等の検討を重ね、予算化を進めてきた。	学校の特色化について、施設設備面だけでなく、外部の人材活用についても、検討する必要がある。次年度より、外部人材のデータベース化に取り組んでいきたい。	外部人材の活用を是非進めていただきたい。能率が悪いなら人材の変更も必要と思われる。ホームページを活用し、保護者からの問い合わせを減らす工夫や「安全安心メール」によって、学校と家庭の連絡を密にすることができた。
	業務改善の推進	教育活動の内容を外部に発信するために、ホームページをさらに活用する。また、教員の業務を軽減するための働き方改革のツールとして利用する。	ホームページの閲覧数を増やし、保護者から学校への問い合わせを減らすためのコンテンツ、学校から家庭への連絡を減らすためのコンテンツを掲載する。	B	各行事について、ホームページに掲載し本校の教育活動を広報するとともに、行事計画をのせることで保護者への周知がはかれた。	A	各行事について、予定や課題内容などをホームページに掲載することで本校の教育活動を広報した。「安全安心メール」等を学校から家庭への連絡に活用し、働き方改革のツールとして利用できた。	ホームページの閲覧数も増加し、有効な活用ができていく必要がある。	
第1学年	集団の中で自己の常識のレベルを向上させる。	集団生活を送るうえでの基本的なルール、マナーを身につける。学校と家庭での学習習慣を確立させる。	礼儀や基本的なマナーを全員が守り、挨拶をしっかりとできるようにする。また、漢字や基本的な計算演習を行い、基礎学力向上を目指す。	B	4月当初に比べると学校生活にも慣れ、友人もできてきたが、欠席・遅刻が目立つ生徒が数名いることや、考査での勉強不足がまだまだ感じられ、今後の課題である。	B	入学時に比べると、服装や礼儀にけじめが出てきたように見えるが、一部の生徒は気の緩む時があり、まだまだ個別の指導が必要である。また、年間を通じて家庭での学習時間の短さが目立ち、保護者の協力の必要性も感じた。	「まずは挨拶をしっかりと」ということを徹底して指導していきたい。朝の点呼時や職員室への入室時などは特に意識させたい。学習時間については記録ノートを作るなどして、学習に対する意識を保つようにしていきたい。	挨拶、生活習慣、マナー、基礎学力向上、社会での良好な人間関係作り等については、繰り返し指導していただいているが、さらによろしく願いたい。
		基本的な生活習慣を身につけると共に、実習や発表を十分にこなせる力を身につける。	遅刻・欠席の合計回数を1人年間10日以内になることを目指す。また、クラブ活動に積極的に参加することにより体力の向上に努める。	B	人前で自分の意見をはっきり言うようになってきた。一方で、部活の参加率がやや下がってきているので、モチベーションを保つ声かけをしていきたい。	B	ほとんどの生徒が目標準値内にあり、一部皆出席の者もいるが、一方で大幅に上回っている生徒も見られた。生活習慣の乱れによるものが大半の理由であった。部活動は年度前半は積極的に参加していたが、後半になって徐々に参加率が下がっていった。	基本的な生活習慣である睡眠や食事を大切にすることが安定した学校生活を送る基盤であることを継続して指導していきたい。部活動は、大会等への参加を促してモチベーションを保つ材料にしていきたい。	
第2学年	ひとりひとりが常識のレベルを上げ、基本的な生活習慣を身につけさせる。	学習習慣を身につけ、意欲的に学ぶ態度を意欲する。スピーチ等の言語活動を充実させ、思考力、表現力を身につける。	SHR等を使い、漢字の基礎学力の向上を図る。HR等を使い、自分の意見をまとめ発表できるようにする。	B	毎朝、SHRで漢字を行い基礎学力の向上を図っている。自分の意見を発表会等で発表する事については、できている生徒がいる一方で、十分ではない生徒もいるため、継続して自分の意見を述べる力を身につけることが必要である。	B	朝のSHRで漢字を行い基礎学力の向上をはかってきた。その分、漢字の知識は以前より増えたが、さらに増やす必要がある。作文発表やフィールドタイム発表で自分の意見や他の生徒に伝えたいことを発表したが、1年次より上達し、ある程度しっかりできる生徒がいる一方で、不十分な生徒も一部いた。	漢字については今後も継続して行い基礎学力の向上を図りたい。また自分の意見をまとめ、発表し、言語活動を充実させるためには、今後も継続して作文を書いて発表したり、HRであるテーマについて議論したり、意見を出し合う機会を増やして行く必要がある。	
		社会人として、基本的な生活習慣を身につける。	あいさつをしっかりと。遅刻欠席の回数を年間5回以内にする。社会人としての基本的な礼儀やマナーを身に付けさせる。	B	欠席は全員5日以内でほぼ休まず登校している。遅刻する生徒が一部見受けられるので、改善するように指導していきたい。基本的な礼儀やマナーは概ねできている。	B	欠席は全員5日以内で、遅刻も3学期に入ってからなくなった。基本的な礼儀やマナーは概ねできている。あいさつも概ねできているが、受け身な部分もあり、自分から積極的にという部分が不十分な生徒もいた。	社会人としての基本的な礼儀やマナーについては、今後も折にふれ指導していきたい。また受け身ではなく、自分から自然にあいさつができるように指導していく必要がある。	
第3学年	各自の能力を結集し、集団で物事を解決する態度を育成する。	高い目的意識を持ち授業に取り組み、進路実現に対応する能力を身につける。	SHR等で漢字もしくは計算問題を実施する。HR等を使って自分の意見をまとめ発表できるようにする。	B	漢字・計算の基礎学力の向上に時間が少し取れなかった。自分の考えを持つことができない生徒がいる。進路実現のために、自分磨きをさせていきたい。	B	漢字、計算の基礎学力の向上の時間を少し取ることができなかったが、最後に、漢字検定を6人の生徒が受験することができた。また、パソコン検定を受験合格する生徒がいた。	漢字検定やパソコン検定の受験する機会を作り、基礎学力の向上に努め、学習に対して、高い目的意識を持たせる。	
		社会人として、挨拶・言葉づかいのけじめをつけ、コミュニケーション能力を向上させる。	挨拶をしっかりと。ボランティア活動に積極的に参加し、社会の一員としての基本的な礼儀やマナーを身に付けさせる。	B	挨拶は、かなりできるようになった。与えられたこと以外にも、ちょっとした気遣いができるようになった。	B	社会人として、挨拶はかなりできるようになったが、しかし、言葉づかいに関してはまだまだできていない。	来年の就職試験に備えて、面接練習の映像を見て、それぞれが言葉づかいが正しくできるように指導していきたい。	
第4学年	得た能力を発揮し進路希望の実現など自己を確立させる。	生徒の進路実現に向けて、進路指導部と連携しながら進路先の開拓に努める。	卒業までに進路先が100%内定していることを目指す。	B	現状では1名がアルバイト、4名が就職に内定、1名が専門学校に合格している。残り1名は大学進学を希望している。夏前から生徒が自身の将来に向けて真剣に考え、積極的に活動出来た。	A	就職ではなく現在のアルバイト先で引き続き働く生徒もいるが、全員、就職や進学を年内に決めている。今後は卒業に向けて課題研究の最終発表の原稿作成等を集中して取り組ませたい。	1月末に課題研究の最終発表の原稿作成が残っているため集中して取り組ませたい。	
		課題研究(職場実習)において、職場の厳しさや仕事への取り組みを学ぶ。また社会で自立していく力を身につけ、主体的に進路を選択する能力を養う。	職場体験実習の成果が満足であった生徒が90%以上であることを目指す。	B	職場環境が合わず別の職場へ変更する生徒がいるが、概ね実習に対して前向きに活動出来ている。	B	課題研究先では特に大きなトラブルもなく、概ね実習に対して前向きに活動出来ている。	課題研究先での人間関係で悩み、生徒自身の仕事に影響が出ることがあった。社会に出て行く中で良好な人間関係を築いていくために自身と向き合い修正していくことは大切であることを引き続き指導していきたい。	

【自己評価の判断基準】

A: 十分である(よくできた)【目標値の達成率80%以上を目安とし総合的に判断する。】

B: ほぼ十分である(できた)【目標値の達成率65%~79%を目安とし総合的に判断する。】

C: あまり十分でない(あまりできなかった)【目標値の達成率50%~64%を目安とし総合的に判断する。】

D: 改善を要する(できなかった)【目標値の達成率50%未満を目安とし総合的に判断する。】